

令和6年度事業報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

【概況】

当法人は、昭和39年1月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。本年度も禅文化の普及に努め以下の活動を行った。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班は通常開催となった。

資料収集・資料公開活動では、「禅文化財 COLLECTION」サイトに、当法人の所蔵墨蹟等を毎月アップした。寺宝調査活動は、調査終了済寺院のデータ整理を行った。

「蔵書 SEARCH」サイトでは、当法人が有する和漢古書のデジタル化を進め、オンライン公開している。

広報・普及活動では、公開講演会やサンガセミナー等を開催したほか、SNSを利用して禅文化の普及に努めた。書籍等の刊行については、『季刊 禅文化』をはじめ、『禅宗語録入門読本』や『2025年禅語こよみ』などを刊行した。

創立60周年記念式典を10月9日に開催。禅文化賞授賞式、記念講演などを行った。

収益事業では、宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売やサポート、臨済宗や他宗派の宗務所管理システムの機能追加への対応や保守サービスなどを行った。

共益事業では、臨黄合議所関連の業務をはじめ各派宗務本所や寺院からの委託出版などを行った。

－目次－

I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉 調査・研究活動	2
〈2〉 資料収集・資料公開活動	3
〈3〉 広報・普及活動	4

II. 収益・共益等事業

〈1〉 ソフト開発・販売等事業	8
〈2〉 共益事業	9

I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉調査・研究活動

1. 禅宗史・禅語録研究班

※各研究会の概要は7頁に記載。

①唐代語録『祖堂集』研究会〔班長 西口芳男〕

今年度は卷十三報慈和尚章（全三十四則）の第三十二則より始め、龍潭和尚章（全九則）、福先招慶和尚章（全三十一則）の第二十二則までの三十四則を読み進めた。開催日は、2024年4/12、4/26、5/10、5/24、6/14、6/28、7/26、10/11、11/8、11/22、12/8、12/13、2024年1/10、1/24、2/14、2/28、3/14

また、『禅文化研究所紀要』第38号（2025年4月）に『祖堂集』卷一一譯注（一）保福和尚章（上）」を発表した。

講師：衣川賢次（禅文化研究所講師）

参加者：11名

②「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

今年度は卷一七・吉州南源山行修禅師（二則）／洪州泐潭明禅師（四則）／吉州秋山和尚（一則）／洪州泐潭延茂禅師（二則）／洪州鳳棲同安院常察禅師（二則）／洪州泐潭匡悟禅師（四則）／吉州禾山無殷禅師（十二則）までを読み進めた。

開催日は、2024年5/31、7/31、9/17、2025年1/16、3/27。

参加者：10名

③江湖開山等語録研究〔担当 藤田琢司〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行う。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。

今年度は、箕面市・正法寺勸請開山、梅天無明禅師の法語集の刊行に向けての作業を行い、令和7年5月に刊行した。

④『延宝伝灯録』研究〔担当 藤田琢司〕

江戸時代前期に卍元師蛮が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行う。本書は日本の禅僧・居士ら約千人の伝記および機縁語句などを録したもので、江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができる。しかし全四十巻という大部に加え、難解な禅語の知識が不可欠であったためか、従来訓読等が刊行されたことはなかった。

今年度も訓注を進めたが、体裁を上中下3巻とし令和7年度中に第1巻の刊行を目指す。

2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。今年度は活動なし。

3. マルチメディア研究班

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。令和6年度には、禅のこころを生かしたミニ・カレンダーである「2025年禅語こよみ」(禅宗寺院の宝物Ⅰ)を刊行したほか、DVD 禅僧が語るシリーズとして、山川宗玄老師の「花が咲く」を発行した。

また、花園大学仏教学科と『宗学概論』改訂版の編集作業を進めた。

4. 人材の発掘及び研究発表の場の提供

禅に関わる人材発掘・育成に繋げるため、臨黄各派の専門道場師家が集まる「師家の集い」(第2回)を令和7年3月6日に京都市内のホテルで開催した。全国16僧堂の師家が出席した。

〈2〉資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

臨済宗・黄檗宗寺院において大切に遺されてきた禅仏教や寺院に関する文化財を、デジタル化して広く国内外に紹介する事業。令和4年5月に「禅文化財 COLLECTION」サイトを開設、文化財のデジタル画像は、高精細な画像ビューアで見ることができる。

① デジタルアーカイブス(禅文化財目録整備事業)

公開中の「禅文化財 COLLECTION」サイトに、当法人が有する学術資源を順次追加したほか、これまで調査を実施した寺院の中から、平林寺(埼玉県新座市)所蔵の作品を公開中。オンライン公開の作品は369点(令和7年3月現在)。年間のユーザー数(訪問者数)は1,712(前年2,009)、ページビュー数(閲覧数)は9,050(12,125)。

また、5月より墨蹟類の読みと時代背景等を考察する「禅門墨蹟研究会」(講師:志水一行妙心寺派特別研究員)を立ち上げ、毎月1回のペースで「禅文化財 COLLECTION」サイトにアップする作品の検討を行っている。

② 寺宝調査活動

これまでに請け負った調査の翻刻と目録作成及び画像の整理などを行った。納品が済んでいないのは、瓦屋寺・円福寺・玉林院・見性寺となっている。

2. 資料の収集・整理・公開等

① 資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた文献資料と新たな購入や寄贈を受けた図書の整理を行った。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれており、これらの閲覧も、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放した。

所蔵図書のオンライン検索については、データ整理及びシステム開発を進め、令和5年4月に一般図書を対象とした「蔵書 SEARCH」サイトを開設した（現在の検索可能点数は11,126点）。また、それに合わせて、当法人が有する和漢古書をデジタル化してオンライン公開し、利用の便を向上させた（現在の閲覧可能点数は443点）。年間のユーザー数（訪問者数）は3,051（前年3,832）、ページビュー数（閲覧数）は7,118（15,265）。

〔所蔵作品の貸与〕

当法人所蔵の墨蹟を以下の企画展に出品した。

- 「宝林寺 東輝庵」展 会期 9/14～11/10 横浜市歴史博物館
「鍾馗図」白隠慧鶴画賛／「坐禅蛙図」仙厓義梵画賛
- 「雪村」展 会期 2/15～4/6 茨城県立歴史館
「蕪図」景初周随賛・雪村周継筆

② 黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。今年度の追加登録はなし。

③ 問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが寄せられるが、それらの回答に無料で応じている。

〈3〉広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は以下の号数を発行した。発行 3,000 部。

- 272 号 特集 傑僧・南天棒
 - 273 号 特集 日本人と『般若心経』
 - 274 号 特集 弔いを考える
 - 275 号 特集「一休」をどうみるか ―多面性の魅力―
- 主な配布先は寺院、一般など。購読会員数 760 名。

2. 研究成果の刊行

- ①『DVD 禅僧が語る「花が咲く」』 山川宗玄 (令和6年4月刊行)
初版 2000 部
禅僧が語るシリーズ第14作目。
- ②『2025年禅語こよみ』 禅宗寺院の宝物Ⅰ (令和6年9月刊行)
初版 45,000 部
禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。
- ③『禅宗語録入門読本』 小川隆 (令和6年10月刊行)
初版 1000 部
いにしへの禅僧たちの故事や問答を読みながら漢文の基礎を学ぶ書。
- ④『禅文化研究所紀要 38号』 *電子版 (令和7年4月刊行)

○重版

- ①『和顔』2刷 1000 部
- ②『語録のことば』3刷 500 部
- ③『ナムカラタンノーの世界』オンデマンド版3刷 200 部
- ④『禅門陀羅尼の世界』オンデマンド版4刷 100 部

3. ホームページの運営とコンテンツの更新

① 禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの更新

創立60周年記念事業の一環として、令和6年5月にホームページのリニューアルを完成し公開した。この事業は国のIT事業支援により、制作費（税抜）の2/3の補助を受けた。

ホームページの年間のユーザー数（訪問者数）は60,650（前年49,738）、ページビュー数（閲覧数）は200,073（138,763）。

② 臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行ったほか、サイトリニューアル（令和6年5月公開）に向けての作業を進めた。

4. 公開講演会等

① 禅文化研究所夏季講座（新規）

9月1日（日）、仏教伝道協会BDK会議室で開催。東京における禅文化研究所の普及活動の一環として実施した。テーマは「今、『臨済録』をどう読む」で有料参加者は76名。

講師：横田南嶺老師・小川隆氏 司会：松竹寛山老師

② 禅宗語録入門講座「禅を読む」(新規)

『禅宗語録入門読本』出版記念として3月1日(土)、麟祥院(東京)で開催。
体験講座・講演・対談等を通して語録の世界を体感する内容となった。有料参加者は87名。

講師：松竹寛山老師・横田南嶺老師・小川隆氏・ディディエ・ダヴァン氏

③ 教化・運営の実践講座(サンガセミナー)

寺院の公益性が求められるなか、僧侶も一般の方も一緒になって学ぶ場として開講。令和6年度は以下の講座を開催した。

- ・「江湖法式梵唄抄 基本所作講座」7/26・9/26 講師：吹田良忠師 受講者12名
- ・「北政所400年遠忌記念 高台寺特別参拝」10/27 講師：山田雅巳氏・北山浩士氏 受講者16名
- ・「漢詩作成の基本を学ぶ」(全2回) 1/17・1/31 講師：桐野祥陽師 受講者各10名
- ・「禅寺で花と語らい、花と和す 生け花体験」 11/16・3/15 講師：盛井幸道師 受講者8名

④ ～横田南嶺所長と学ぶ～ 賛助会員と行く禅の旅(新規)

賛助会員を対象とした新企画で、10月17日(木)に埼玉県平林寺で実施した。
内容は、拝観、坐禅・禅エクササイズ(松竹寛山理事長)、講話(横田南嶺所長)で参加者は17名。

⑤ 花園大学ZEN講座 一傑僧・南天棒一

花園大学国際禅学研究所・妙心寺派教化センターと共催で2月15日(土)、海清寺(西宮市)で実施した。参加者は103名。

鼎談：佐々木丞平氏・政道德門老師・志水一行氏・飯島孝良氏(司会)

坐禅指導：荒川玄梁師

⑥ 公開講義〔講師 衣川賢次〕

唐代の語録を読むことを通して、唐代禅の対話精神にふれ、唐代禅思想表現の精華を知るための講義。一般社会人や花園大学院生らが参加し毎週火曜日に開催した。

『趙州録』を終了し11月より『雲門廣録』を開始した。『趙州録』は『訓注 趙州録』として令和7年度に刊行予定。

⑦ その他

花園大学国際禅学研究所の下記講座を共催し広報協力を行った。

11月10日 一休フォーラムー一休と女性たちー(学士会館)

3月4日 禅宗法式シンポジウム「禅宗における尼僧」(花園大学)

5. 広報・普及

研究所の各種事業や刊行物の案内を、ダイレクトメールをはじめ、ブログ、メールマガジンの発行、SNS などを利用して広範囲に普及した。令和5年度より所長による youtube の配信を開始し、出版物や各事業の広報を行っている。

また、11月に『禅宗語録入門読本』と『禅文化』の新聞広告（朝日・読売の全国版）を行った。

【ダイレクトメール】 10月16日発送 3,904通（寺院・一般）

注文件数 410 回収率 10.5%

【メールマガジン】 12回配信（VOL107～118） 4/28 現在の登録者数 2,771（前年 2,296）

【SNS】 X（旧 Twitter） フォロワー 1,612人（1484）／Instagram フォロワー 732人（509）／Facebook フォロワー 2,169人（2,066）

【youtube】 チャンネル登録者数 2,020人（1,190）（年間23本アップ）

現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り（業者委託分含む）。
妙心寺（花園会館）／天龍寺／佛通寺／龍安寺（妙心）／鹿苑寺（相国）／神勝寺（広島・建仁）／東慶寺（鎌倉・円覚）／東京国立博物館／湯木美術館（大阪）

6. 創立60周年事業（新規）

創立60周年事業として10月9日（水）に記念式典を京都ブライトンホテルで開催。「禅文化賞」授賞式では、功労賞を西村恵信師（花園大学名誉教授）と石井修道氏（駒澤大学名誉教授）に授与した。記念講演は「白隠禅師に学ぶ」（講師：芳澤勝弘氏）。出席者は97名。記念出版として『禅宗語録入門読本』と『禅文化研究所60年のあゆみ』を発行したほか、関連事業としてホームページのサイトリニューアルを行った。

※禅宗史・禅語録研究班の概要

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行われている。

①唐代語録（『祖堂集』）研究会

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に 50 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第 8 冊、2003 年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

②「景德伝灯録」研究会

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

Ⅱ．収益・共益等事業

〈1〉ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを販売した。

2. オーダー型管理システムの構築

以下の構築済みシステムの機能追加や運用をサポートした。

東福寺派／南禅寺派／建長寺派／佛通寺派／天龍寺派／妙心寺派布教師会
妙心寺派白隠さんの会／曹洞宗宗務所（京都府・福井県）／真言宗／青蓮院
永保寺墓地／藏春寺霊園

3. 出版物頒布

他社から委託を受けた禅関係の出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。

主な取扱い品：「日本の心 日暦」・「茶禅一如 日暦」・「干支色紙」(以上千真工芸)、
「版画十牛図」(まつ九)、「見てわかる仏事」(臨済宗青年僧の会)、「送喪儀」(連合
各派布教師会)、「DVD 心の時代」(NHK出版)等。

〈2〉共益事業

1. 臨黄合議所事務局

- 年間会議
 - 令和6年4月18日(木) 理事会(大本山天龍寺)
 - 令和6年6月28日(金) 総会(大本山天龍寺)
 - 令和6年9月10日(火) 理事会(大本山天龍寺)
 - 令和7年1月23日(木) 理事会(京都市内ホテル)
- 教学部長会は1回開催
- 臨済宗黄檗宗宗勢調査委員会は16回開催
- 『臨済宗黄檗宗宗勢調査報告書』の発行(令和7年3月)
- 第19回臨黄教化研究会(令和7年2月6日・7日)
- 「臨黄会報」の発行(61号・62号)
- 臨黄互助会の促進
- 会議等の事務処理

2. 寺院委託出版等

- 『大雅窟遺風』 北野大雲(長岡禅塾塾長)／令和6年7月刊行
 - 『梅天禅師法語集』 正法寺(大阪府)／令和7年4月刊行
- その他、以下の制作業務を行った。
- 『空華室日記』第一巻 黄梅院(京都府)／令和7年5月刊行